

# 乳がんについて

今回は外科部長の佐伯隆人医師に「乳がん」について伺いました。



▲佐伯 隆人 医師

乳がん患者さんがいる人などがあげられますが、これに当てはまらない人も十分に注意が必要です。乳がんの症状として多いのは、しこりですがそれ以外にも、乳首から赤や茶褐色の汁が出る、皮膚にくぼみやひきつれがある、乳首が陥没してきた、皮膚が赤くなったり、ただれがあるなどで発見される場合があります。このような自覚症状が出ないうちに発見するためには乳がん検診(問診、マンモグラフィ)が大切です。マンモグラフィは乳腺専用のレントゲンで、小さいしこりや乳がんのサインとなる石灰化がうつるため、しこりとしてさわる前の早期の乳がんを発見できます。40歳以上の人は2年に1回の乳がん検診を受けることが推奨されています。

また、乳がんは体の表面にあるため自分で見つけられる数少ないがんのひとつですので、日頃から自分の乳房に関心を持ち、入浴や着替えの時にどこに変化がないかどうか見て、触って調べる自己検診も重要です。乳がんは早期に発見できると完全に治る可能性が非常に高く、手術においても小さく切除して乳房を温存する(残す)ことができ、わきのリンパ節切除も省略できます。当院はマンモグラフィ、PET/CT装置、放射線治療装置、外来化学療法室を備えていて、乳がんの診断、手術、放射線治療、薬物療法を完結できる病院です。乳房のことで気になることがありましたら小さなことでもいいので、いつでもご相談ください。

日本では乳がんが年々増加し、女性のがんの第1位となっていて9人に1人が乳がんにかかる計算です。

乳がんにかかる年齢は30歳代後半から増えてきて、40歳代後半と60歳代前半にピークがあります。危険因子としては初経年齢が早い、閉経年齢が遅い、出産経験がない、閉経後の肥満、飲酒、喫煙、糖尿病がある人、家族に

ただけがあるなどで発見される場合があります。このような自覚症状が出ないうちに発見するためには乳がん検診(問診、マンモグラフィ)が大切です。マンモグラフィは乳腺専用のレントゲンで、小さいしこりや乳がん

ら自分の乳房に関心を持ち、入浴や着替えの時にどこに変化がないかどうか見て、触って調べる自己検診も重要です。乳がんは早期に発見できると完全に治る可能性が非常に高く、手術においても小さく切除して乳

社会福祉法人 恩賜財団 済生会今治病院

今治市喜田村7丁目1番6号

<https://www.imabari.saiseikai.or.jp/>

☎0898-47-2500

